

2 災害時の飲料水の確保

災害時における飲料水の確保についてお聞きします

問4 近年の大震災や水害を経て、あなたの事業所では水に対する考え方は変化しましたか。

(〇はいくつでも)

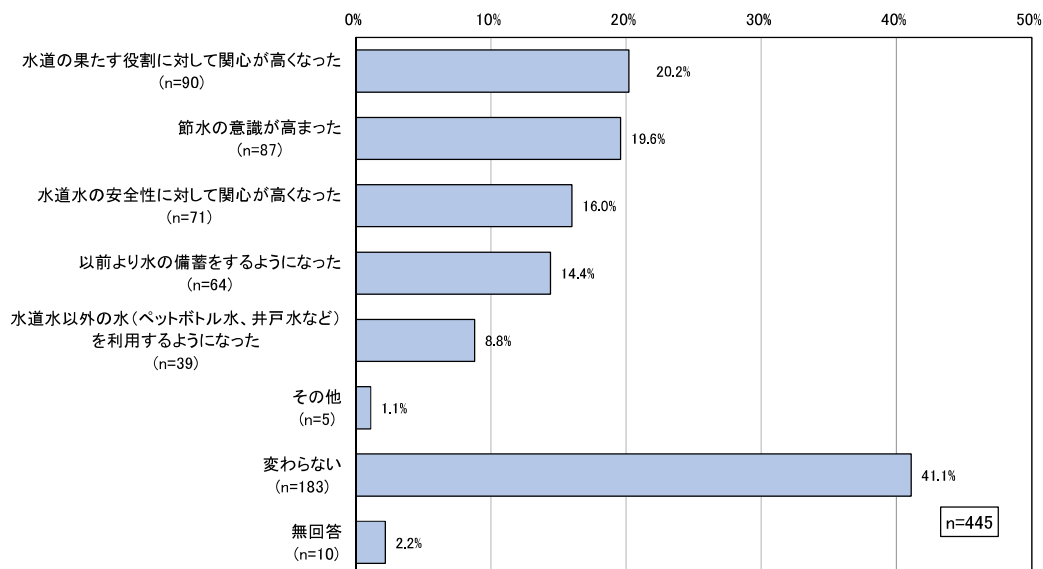
- | | | |
|---|-----------------------------------|---|
| 1 | 以前より水の備蓄をするようになった | |
| 2 | 節水の意識が高まった | |
| 3 | 水道水以外の水（ペットボトル水、井戸水など）を利用するようになった | |
| 4 | 水道水の安全性に対して関心が高くなった | |
| 5 | 水道の果たす役割に対して関心が高くなった | |
| 6 | その他（ | ） |
| 7 | 変わらない | |

問5 災害に備え、1人1日あたり3リットル、3日分で9リットル程度を目安として、飲料水の備蓄をお願いしています。あなたの事業所では、どのくらいの量の飲料水を備蓄していますか。

(〇はいくつでも)

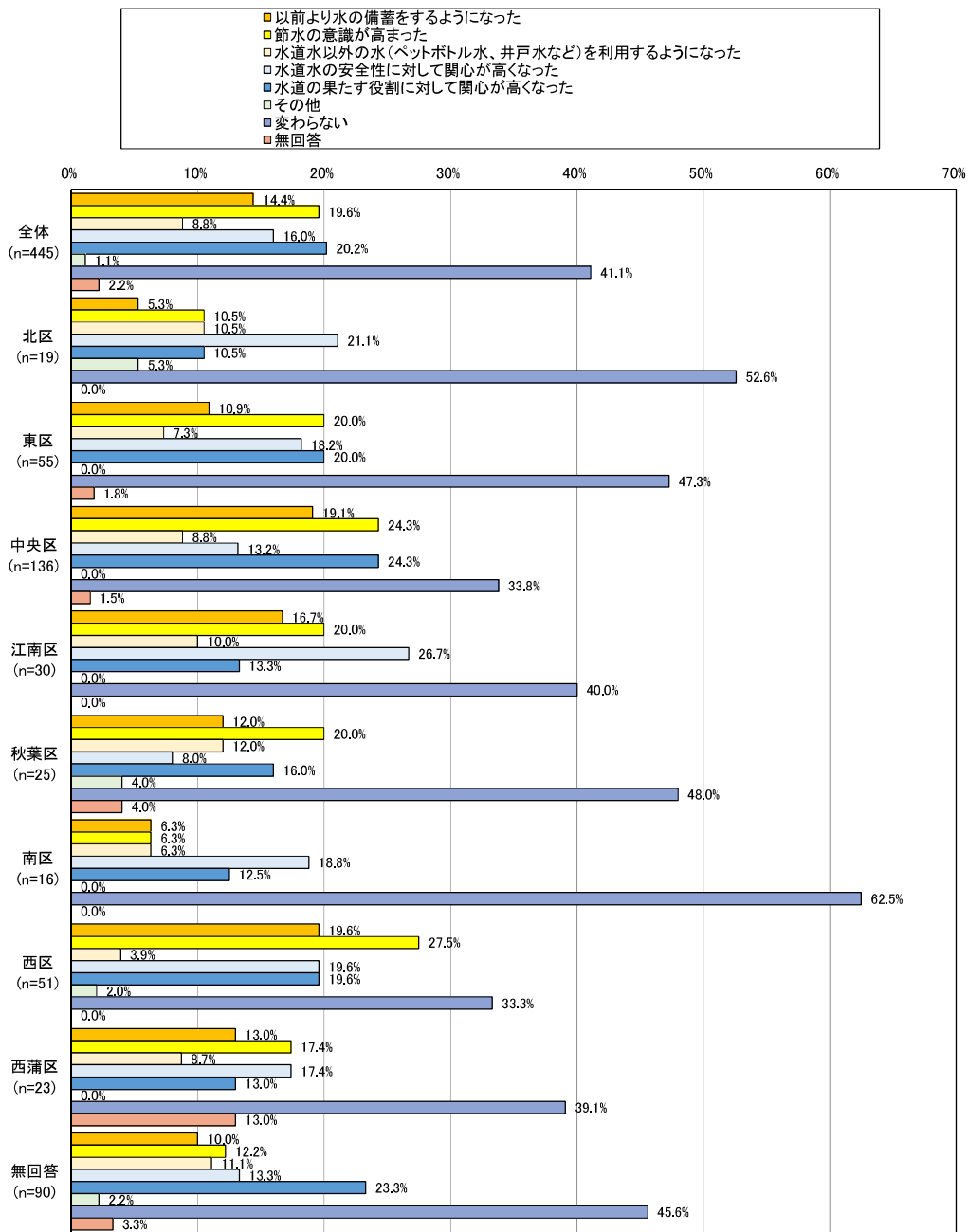
- | | | | |
|---|---------|---------|-------|
| 1 | ペットボトル（ | ミリリットル× | 本） |
| 2 | 水の缶詰（ | ミリリットル× | 本） |
| 3 | ポリタンク（ | リットル× | 個） |
| 4 | その他（ | で | リットル） |
| 5 | 備蓄していない | | |

問4 水に対する考え方の変化

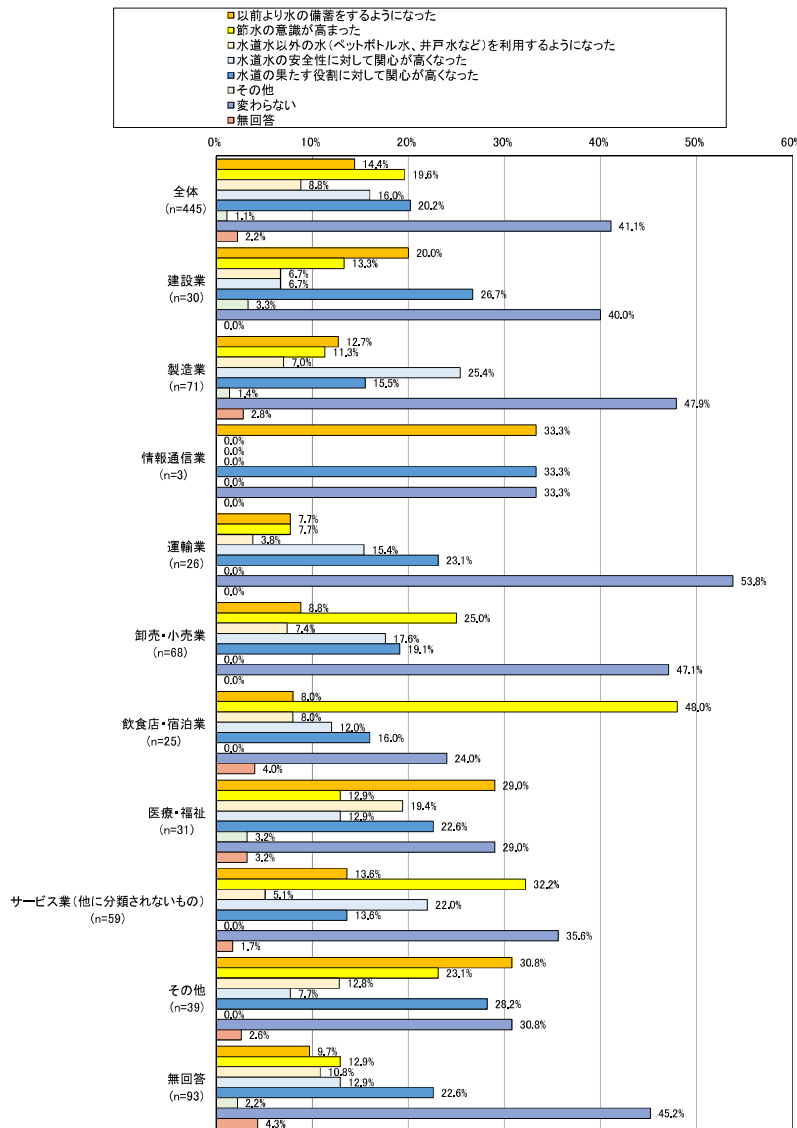


震災後の水に対する意識の変化については、「変わらない」が41.1%、「水道の果たす役割に対して関心が高くなった」が20.2%、「節水の意識が高まった」が19.6%、「水道水の安全性に対して関心が高くなった」が16.0%、「以前より水の備蓄をするようになった」が14.4%、「水道水以外の水を利用するようになった」が8.8%となっている。

その他の回答
ウォーターサーバー
水の非常用備蓄
わからない
本家で水を備蓄



所在区別で見ると、すべての区で震災前の水に対する考え方と「変わらない」が多いが、江南区では「水道水の安全性に対して関心が高くなった」も26.7%と高く、他の区に比べて、その意識の変化の高さが際立つ結果となった。



業種別にみると、意識の変化には違いがある。

「以前より水の備蓄をするようになった」・・・情報通信業が33.3%で高くなっている。

「節水の意識が高まった」・・・飲食店・宿泊業が48.0%で高い。

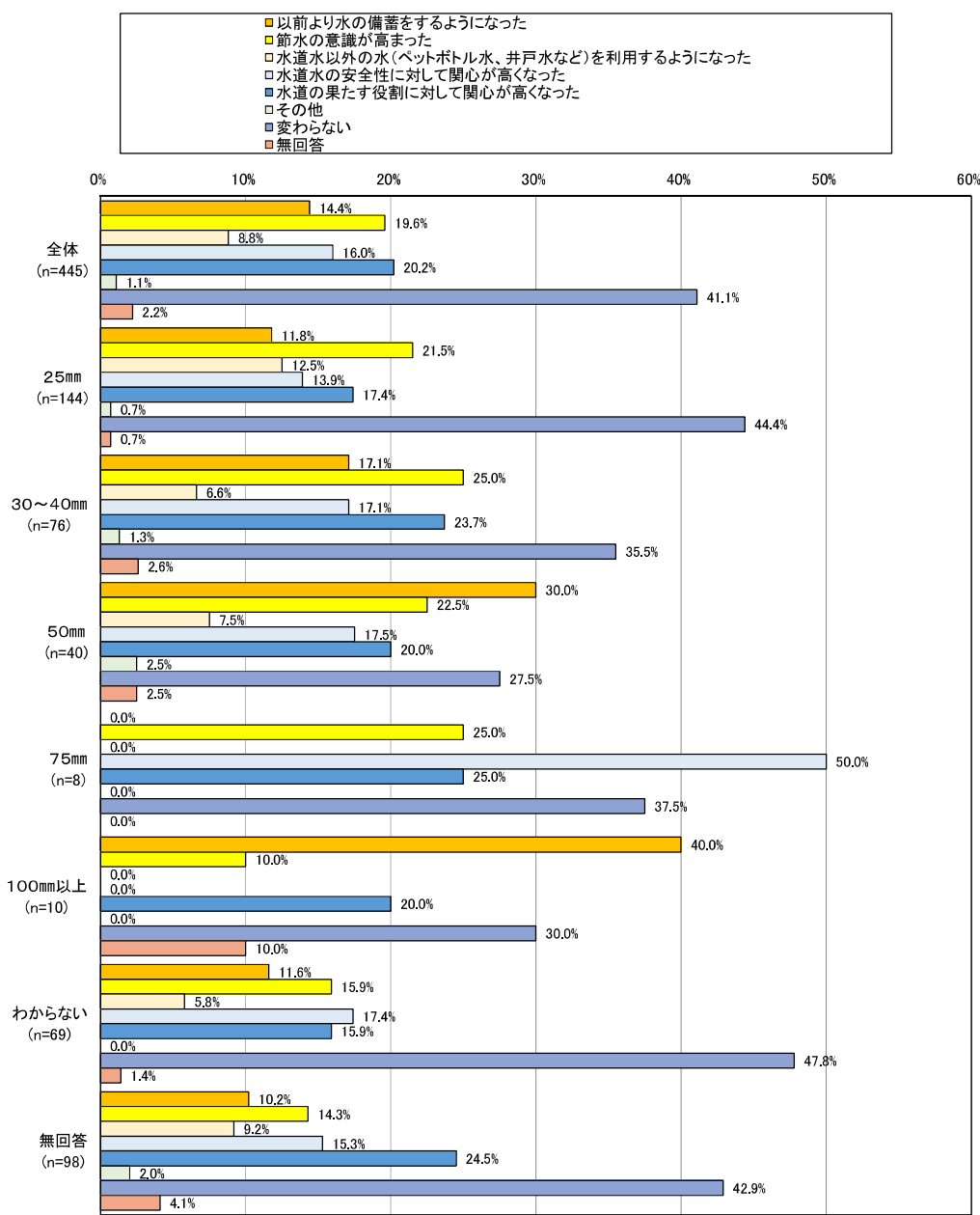
「水道水以外の水（ペットボトル水、井戸水など）を利用するようになった」・・・医療・福祉が19.4%でやや高くなっている。

「水道水の安全性に対して関心が高くなった」・・・製造業が25.4%で高い。

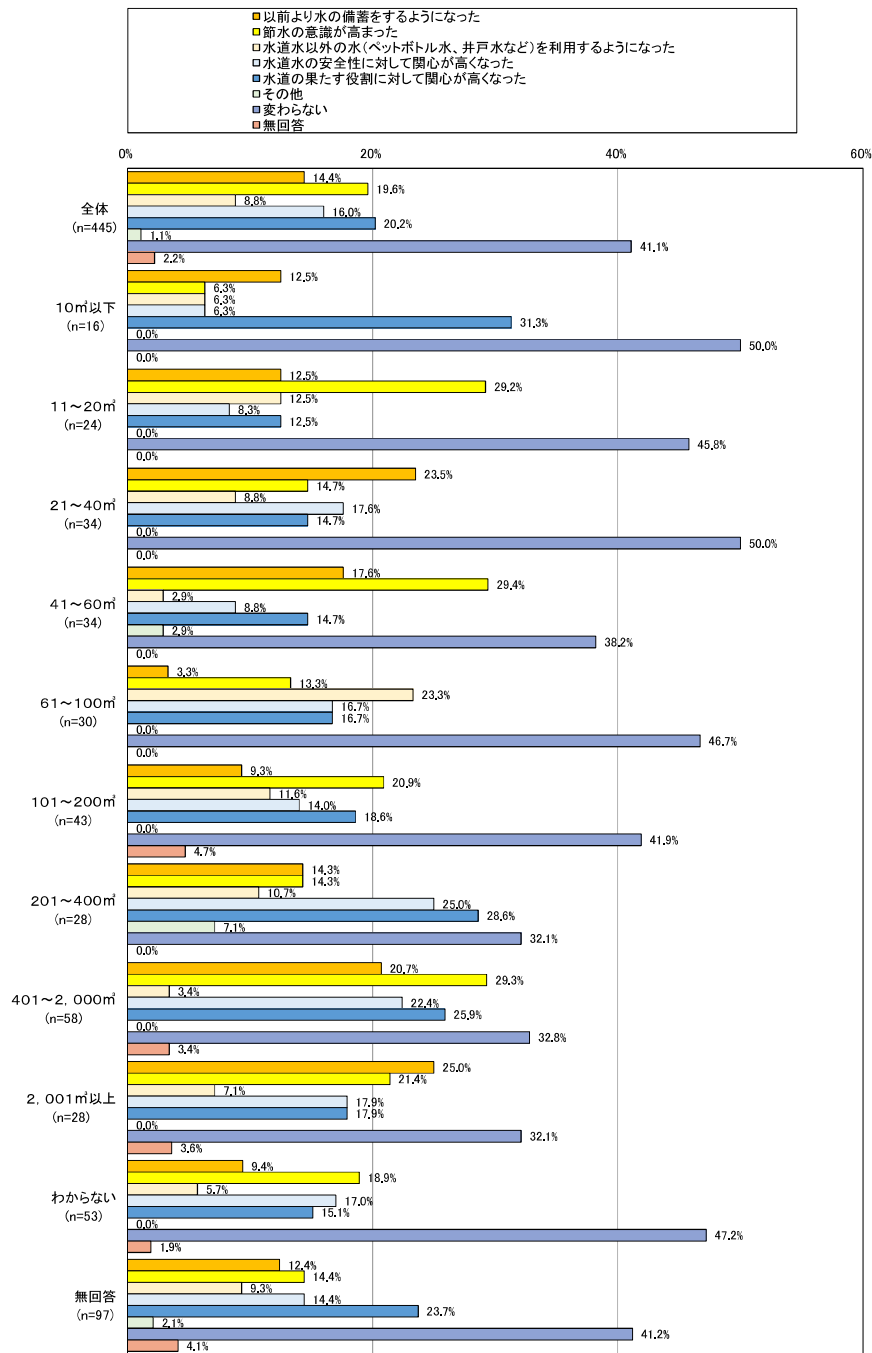
「水道の果たす役割に対して関心が高くなった」・・・情報通信業が33.3%と高い。

「その他」・・・建設業が3.3%でやや高い。

「変わらない」・・・運輸業が53.8%で高い。

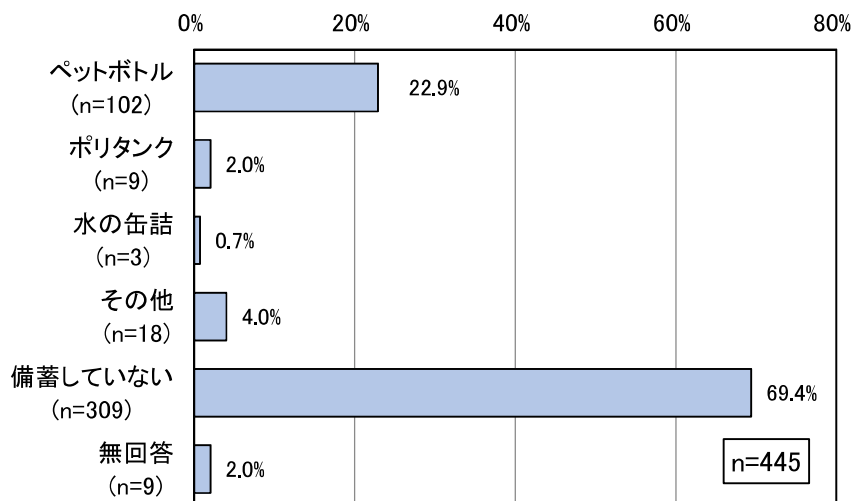


水道メーター口径別で見ると、すべての口径で震災前の水に対する考え方と「変わらない」傾向はあるが、75mmでは、「水道水の安全性に対して関心が高くなった」が他の口径に比べて高く、その意識の変化の高さが際立つ結果となった。



直近の水道使用水量別でみると、すべての水道水の使用水量で震災前の水に対する考え方と「変わらない」傾向が強いことが分かった。

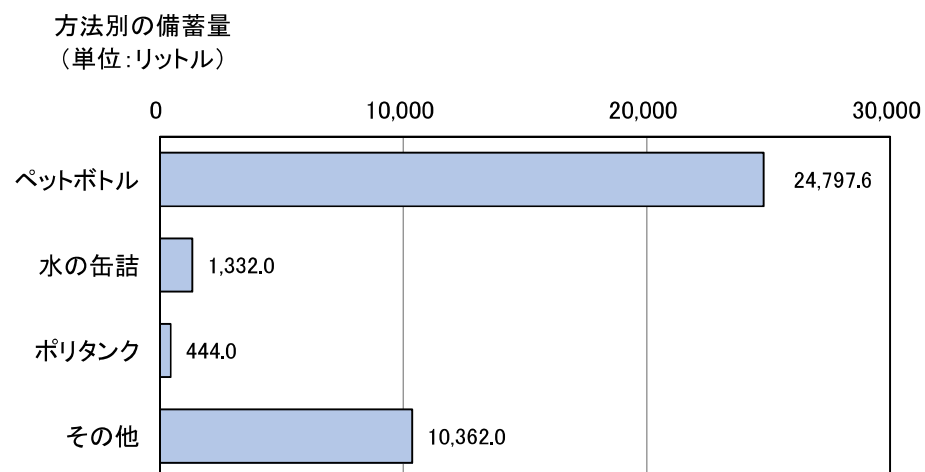
問5 飲料水の備蓄について



備蓄について、ペットボトルが22.9%と最も高い数値を示している。

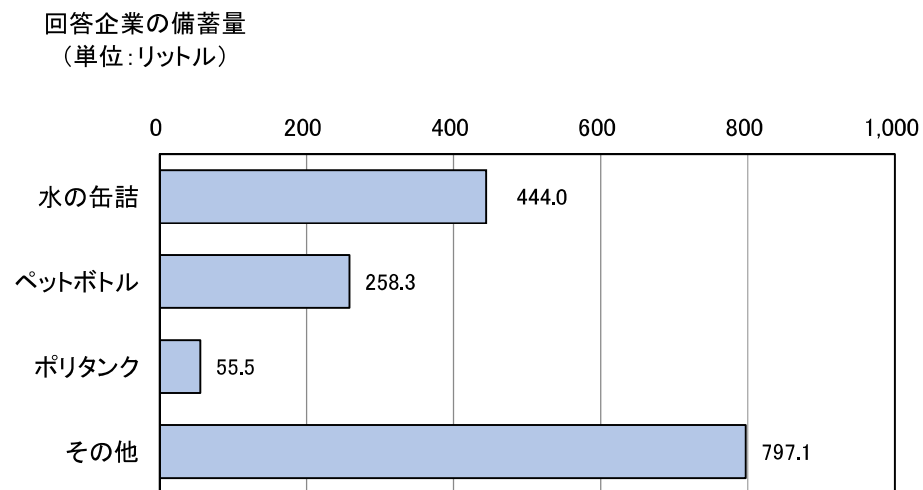
その他の回答
ボトルウォーター×24L
ボトルサーバー×36L
合計 2148L
貯水槽
受水槽有
会社全体で 2L×6 本
貯水タンクで 500L
貯水槽で 300L
マンションで ?L
タンクで 100L
ウォーターサーバーで
受水槽で 6500L
ウォーターサーバーで 60L
ウォーターサーバーボトルで 60L
バックイボックスで 250L
受水槽、高架水槽
ウォーターサーバーで 360L

方法別の合計備蓄量

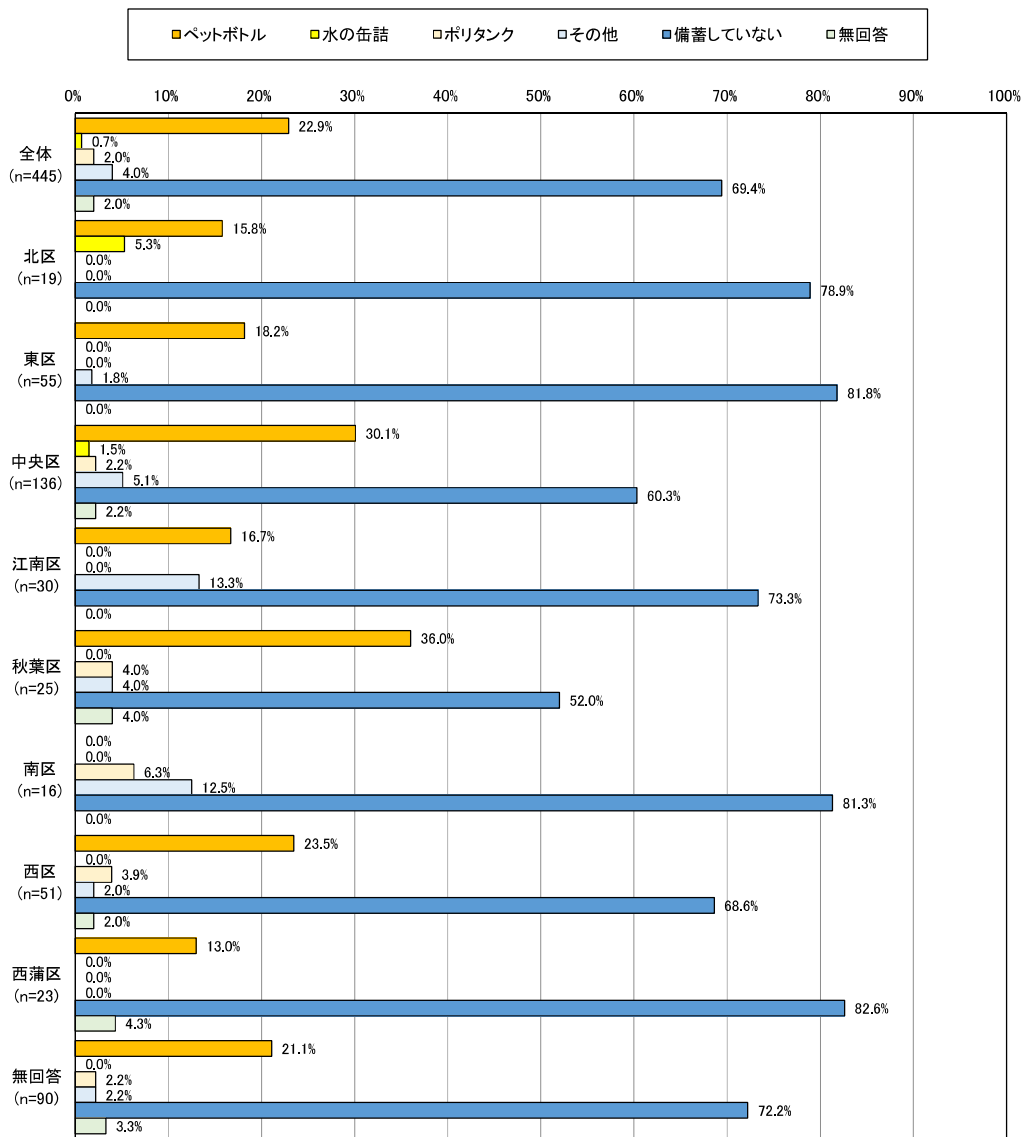


方法別の備蓄量では、ペットボトルが最も多く24,797.6リットルとなっている。

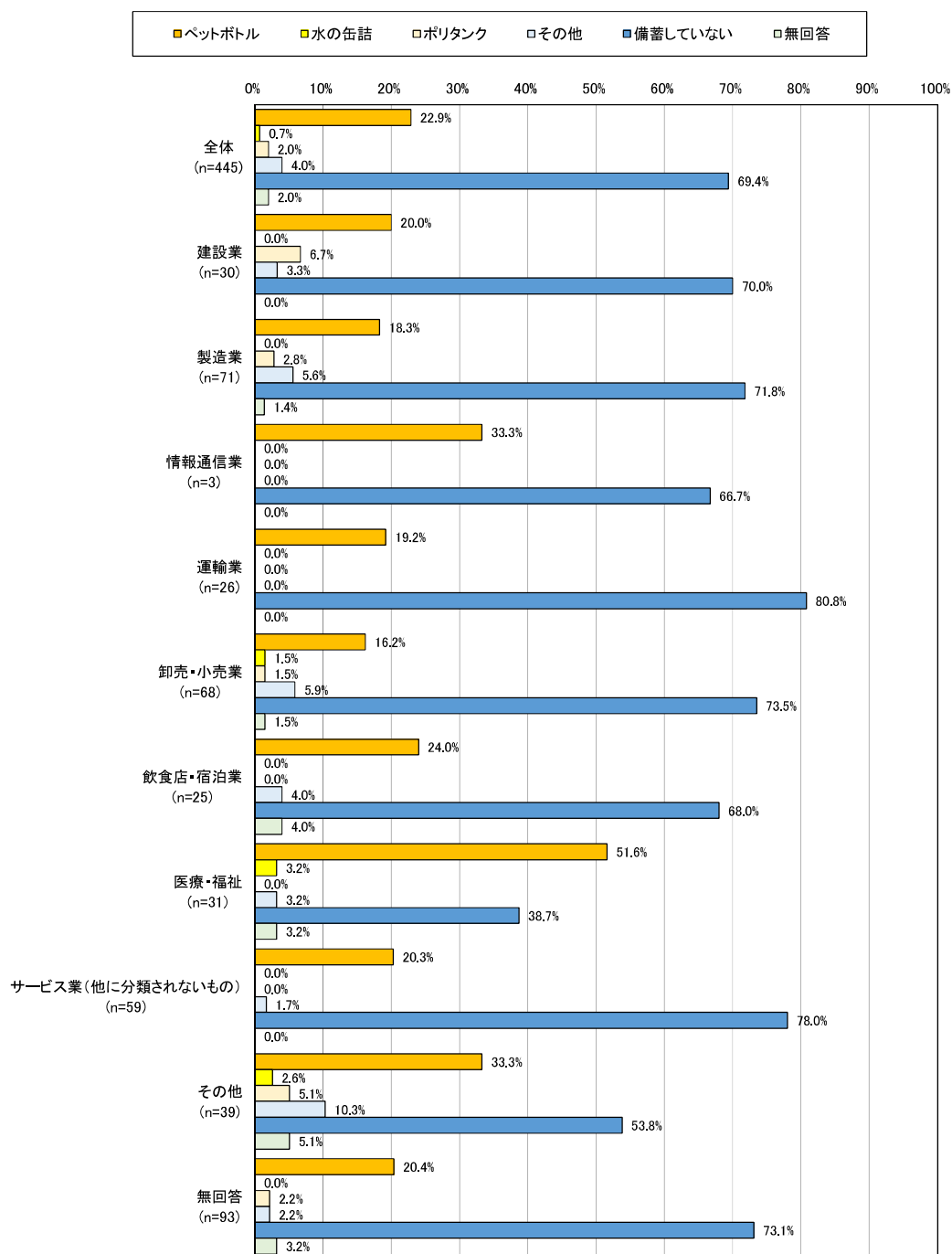
有効回答事業所の平均備蓄量



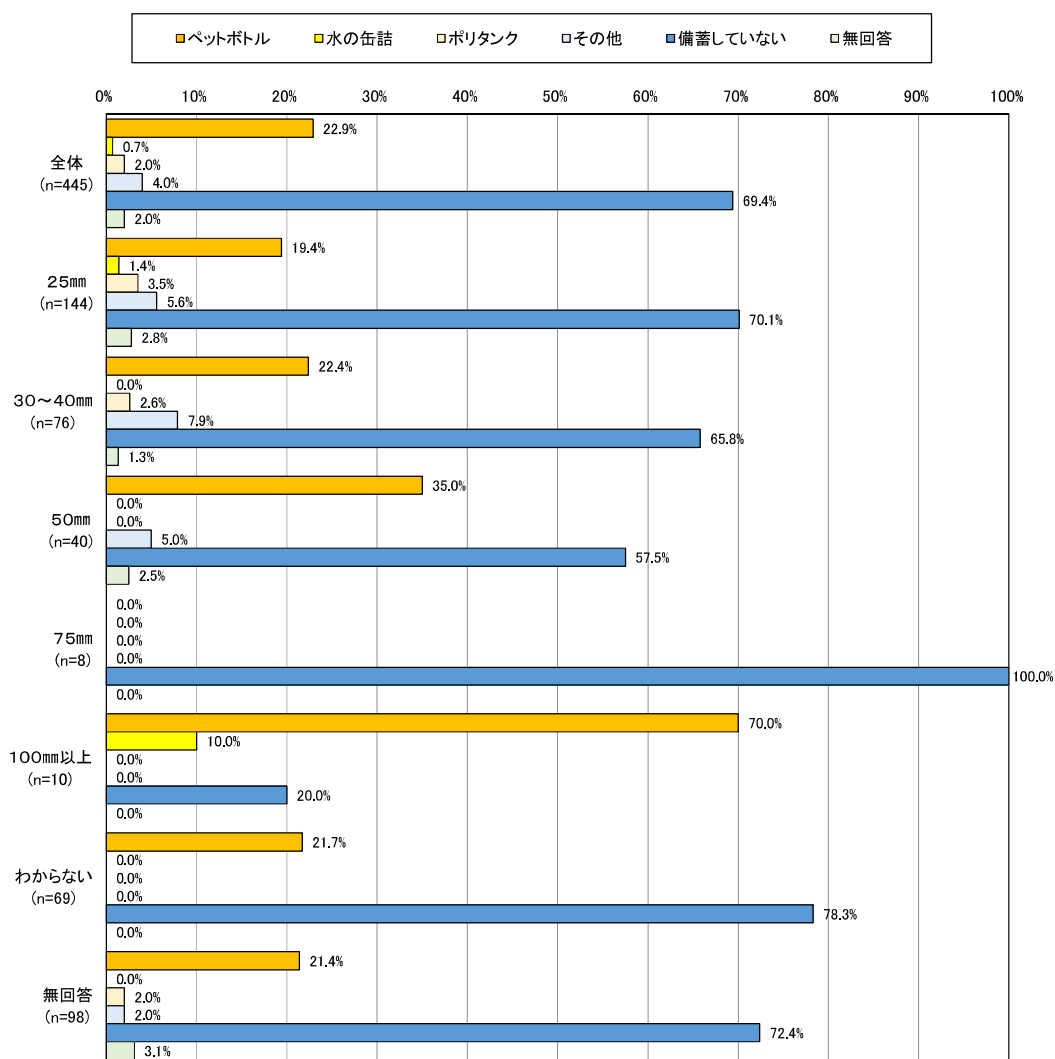
回答企業の平均備蓄量では、その他が最も多く797.1リットルとなっている。



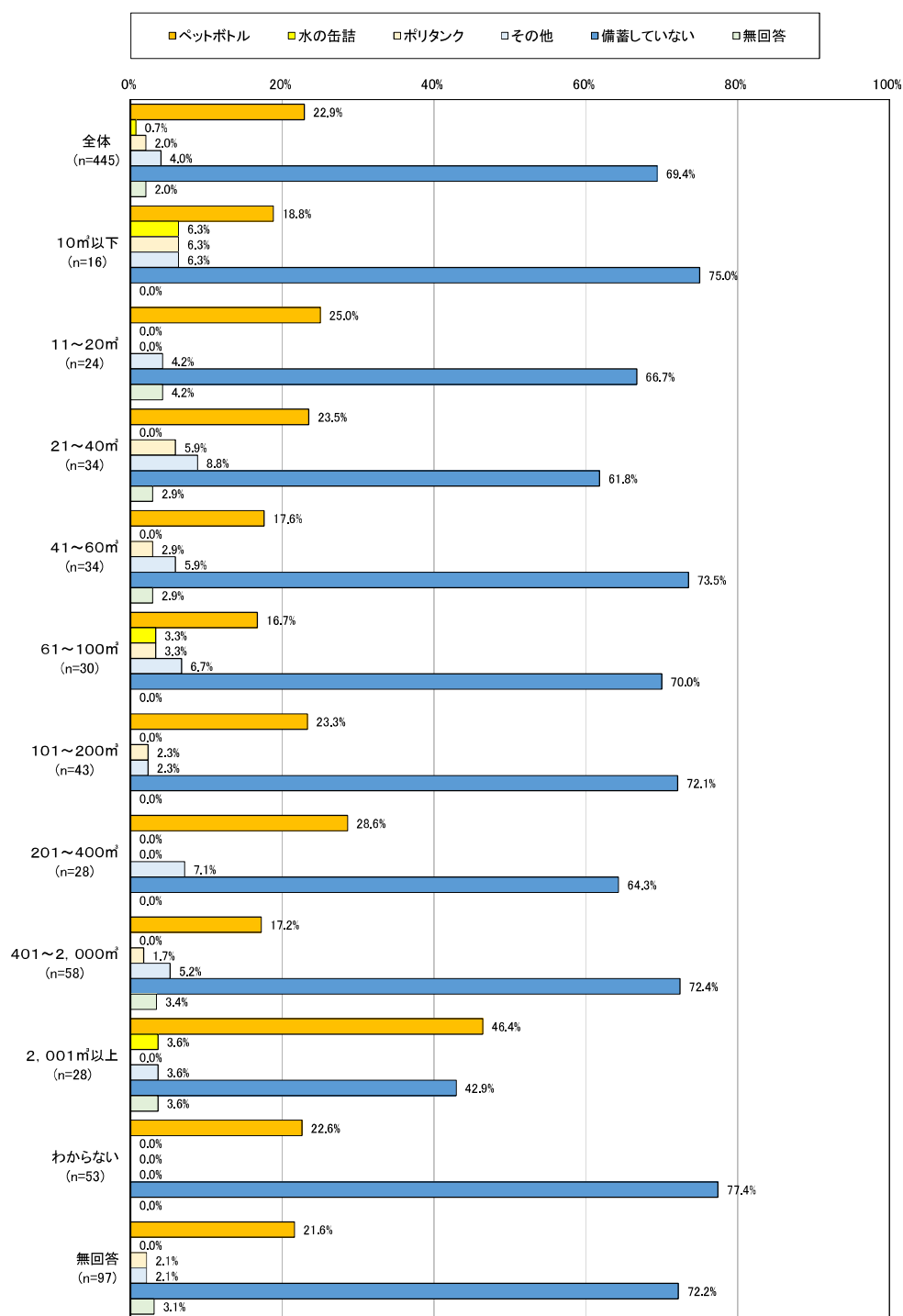
所在区別で見ると、すべての区で「備蓄していない」を除くと「ペットボトル」が圧倒的だが、南区のみが「ペットボトル」が低く、その代わりに「その他」が12.5%と高いことが特徴的である。



業種別にみると、すべての業種で「備蓄していない」を除くと「ペットボトル」が圧倒的なのは変わらない。



水道メーター口径別で見ると、すべての口径で「備蓄していない」を除くと「ペットボトル」が圧倒的なのは変わらないが、口径が30~40mmでは、「ペットボトル」に代わる「その他」の備蓄方法を考えていることが分かる。



直近の水道使用水量別でみると、使用した水道水の量による備蓄方法の変化はあまりみられない。